

このたびは、マイクロカー”MC-1T EV”をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、車の正しい取扱い方法について説明しております。

車について十分ご存じの方も”MC-1T EV”には、電気自動車独自の取扱いがありますのでよくお読みいただき、いつまでも安全、快適にご使用いただくために、車の手引きとしてお手元においてご利用ください。

なお、ご使用中にお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または、(株)光岡自動車までお気軽にご相談下さい。

”MC-1T EV”が、皆様1人1人の人生を豊かにするお手伝いのできれば幸いです。

- ★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などを説明してあります。「安全に関する表示」「安全・カーライフのために」は重要ですので、しっかりお読み下さい。
- ★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書及びメンテナンスノートをお渡し下さい。
- ★保証に関することや、点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載されております。
- ★ミツオカ販売店で取り付けられた装備品などにつきましては、装備品に添付されている取扱説明書をお読み下さい。
- ★車の仕様の変更により、この本の内容やイラストとお車が一致しないことがあります。あらかじめ、ご了承下さい。
- ★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認して下さい。この車の運転に必要な免許は、普通自動車です。
- ★この車の乗車定員は、運転者のみの1名です。
- ★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や、取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書お読み下さい。また、メンテナンスノートもぜひお読み下さい。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が損害を受ける可能性があること」を回避方法と共に、下記の表示で記載してあります。これらは重要ですので、しっかりお読み下さい。

**危険**

指示に従わないと、死亡または重大な損害に至るもの

**警告**

指示に従わないと、死亡または重大な損害に至る可能性があるもの

**注意**

指示に従わないと、損害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



アドバイス お車のために守っていただきたいこと



知識

知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なこと

安全・快適カーライフのために	1
各部の名称	8
バッテリー管理上の注意点	9
バッテリーの点検	9
バッテリーの寿命について	12
バッテリーの交換	13
充電の準備	13
充電の手順	15
充電状態の確認	16
インストルメントパネルの名称	18
メーターと警告灯のみかた	19
スイッチの使い方	20
セレクトスイッチの取扱い	22
運転の準備	23
運転方法	26
寒冷地での取扱い	28
お願い	30
整備点検について	31
ボディのお手入れ	33
洗車／住みやすい環境の為に	34
フレーム号機	34
メンテナンスノート	35
サービスデータ	36

⚠ 危険

- ・この電気自動車には、高電圧部位(48V/72V)とこれらを接続する配線があります。また、走行時や充電時に高温になる部位もあります。
- ・高電圧の配線およびコネクタは危険ですので絶対に触らないで下さい。
- ・これらの部位には取扱上の注意を記載したラベルが貼り付けてあります。これらの部位については、ラベルの指示を必ず守って下さい。

充電コードは必ずはずして下さい

- ・充電コードが接続されたままではキースイッチを入れても走行可能状態にはなりません。

日常点検は必ず実施する

- ・お車を安全にお使いいただくため、日常点検は必ず行って下さい。適切な時期に実施することが法律で義務づけられています。(詳しくはメンテナンスノートをお読み下さい。)



眠気をもよおすような薬を飲んだときは運転しない

- ・カゼ薬など眠気をもよおすような薬を飲んでの運転は避けて下さい。

シートベルトは正しく着用

- ・シートベルトは不適正に着用すると、ベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトにより怪我をする恐れがあります。正しい着座姿勢で正しく着用して下さい。(詳しくは、P.24,25をお読み下さい。)



正しい運転姿勢に調節

- ・走行前にシート、ハンドルの位置が正しい運転姿勢がとれるように調整し、バックミラー後方視界が十分確認できる位置に調整して下さい。

運転席足下に物を置かない

- ・足元のまわりに空缶等を置かないで下さい。
- ・ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまったりすると、ペダルの操作ができなくなり思わぬ事故につながる恐れがあります。



タイヤ空気圧はときどき点検する

- ・タイヤ空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど思わぬ事故につながる恐れがありますので、タイヤ空気圧はときどき点検して下さい。

手荷物は積みすぎない

- ・大きい荷物、重い荷物を積んだり、荷物を重ねて積まないで下さい。急ブレーキ等のとき荷物が落ちてきたりして危険です。



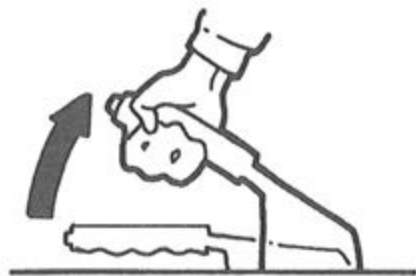
車を後退させるときは周囲に注意

- ・バックミラーでは確認できない死角があります。車から降りて後方の人や障害物を確認して下さい。



駐車するときはパーキングブレーキをかける

- ・駐車時または、坂道発進時にレバーを一杯に引いて使用します。



雨天の走行は速度を落とす

- ・路面が濡れると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転を心がけて下さい。
- ・わだち等にできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になりハンドルや、ブレーキが効かなくなり危険です。スピードをおとして走行して下さい。特に摩耗したタイヤはハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意して下さい。



- ・冠水路等の深い水たまりは走行しないで下さい。水によりモーター破損等車輛故障につながる恐れがあります。

水たまり走行後はブレーキの効きを確認

- ・水たまり走行後や、洗車後はブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで確認して下さい。
- ・効が悪い時は低速で、走行しながらブレーキを軽く踏み続け、効きが回復するまでブレーキを乾かして下さい。



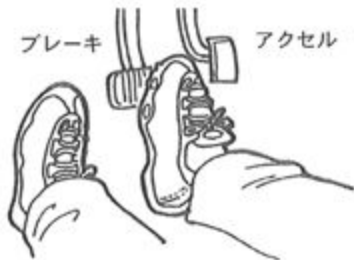
滑りやすい路面を走行する時は慎重に

- ・濡れた路面や凍結路、積雪路等ではスピードを落として下さい。
- ・急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けて下さい。タイヤがスリップしやすく思わぬ事故につながる場合があります。



ペダルの位置を確認

- ・ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。走行する前にペダルの位置を確認して下さい。
- ・アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作して下さい。



アクセルペダルはゆっくり踏む

- ・アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながる恐れがあります。

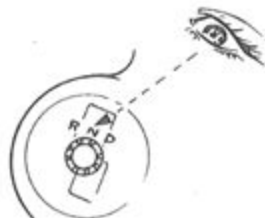


セレクトスイッチの操作は正しく確実に

- ・DまたはRの状態でキーをONにしても動きません。(一度Nに戻してからキーをONして下さい。)
- ・セレクトスイッチの切り替えは必ず車が停止時に操作して下さい。
- ・セレクトスイッチの操作はアクセルペダルを踏まない状態で行って下さい。
- ・後退したときは、すぐ「R」から「N」に戻す習慣をつけて下さい。

セレクトレバー位置は目で確認

- ・キーをONにするときは「N」、前進するときは「D」、後退するときは「R」の位置にあることを確認して下さい。



走行中にセレクトスイッチを操作しない

- ・走行中にセレクトスイッチを「D」→「R」、「R」→「D」にしないこと。切り替え操作は必ず車が停止時に操作して下さい。
- ・モード切換えスイッチは通常ECOにし、交通の流れの速い道路に合流するとき、坂道を走るとき、荷物を積んだときのみPWRにして下さい。

警告

- ・アクセルを踏んだままセレクトスイッチを切り替えると（「D」→「R」、「R」→「D」）安全装置が働いて、モーターは作動しません（惰性で走る）。
- ・但し、一度アクセルを戻し、再度踏み込んだ場合はモーターが作動します。この時急激なアクセル操作を行いますと、進行していた方向とは逆方向に大きな駆動力が働きますので大変危険です。また、モーター及び駆動系の故障や思わぬ事故につながる恐れがありますので注意して下さい。

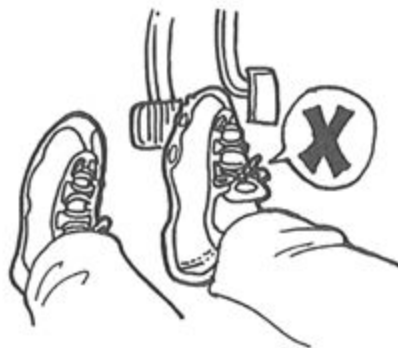
横風が強い時は

- ・横風を受け、車が横に流れるような時は、ハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落として下さい。
- ・トンネルの出口、橋の上、切り通し等は特に横風が強いので注意して下さい。



ペダルに足を乗せたままにしない

- ・ブレーキペダルに足を載せたまま走行しないで下さい。ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが加熱し効きが悪くなる恐れがあります。



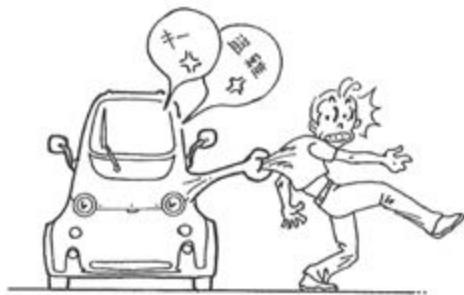
走行中に異常があったら

- ・走行中タイヤがパンクやバースト（破裂）したら、あわてずハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落とし、安全な場所に停車して下さい。急ブレーキや急ハンドルを行なわないで下さい。車輻がコントロールできなくなり危険です。
- ・床下に強い衝撃を受けた時は、すぐに安全な場所に停車してブレーキ液漏れや、車体下部に損傷がないかを確認して下さい。損傷がある場合は販売店に連絡して下さい。



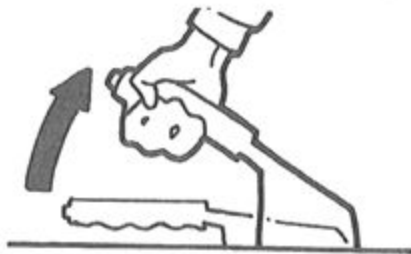
車から離れるときはキーを抜きパーキングブレーキをかける

- ・ 車輦の発進や盗難など思わぬ事故につながる恐れがあります。



坂道駐車はパーキングブレーキを確実に

- ・ 無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながる恐れがあります。パーキングブレーキを確実にかけて下さい。
- ・ タイヤに輪止めをかけると効果があります。



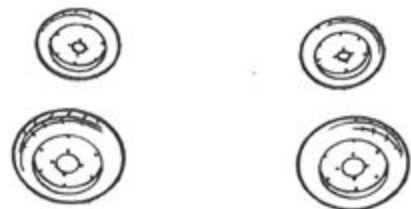
二人乗りはできません

- ・ この車輦は1人乗りです。2人乗りはできませんのでご注意ください。



タイヤは4輪とも指定サイズで同一のものを

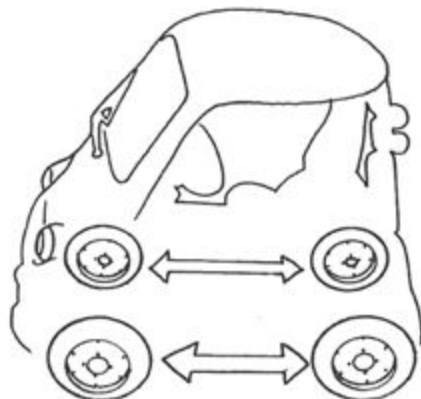
- ・タイヤは4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものを装着して下さい。タイヤの交換は4輪とも同時に行ない、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものを装着して下さい。摩耗差が大きかったり、サイズが異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり重大な事故の原因になります。



4輪とも同じタイヤ

タイヤは定期的に位置交換を

- ・タイヤ間に磨耗差があったり、空気圧が規定値より著しく異なると車の性能が十分発揮できなくなり、安全性を損ねたり故障の原因になります。
- ・タイヤの交換位置は約5,000 km走行毎に定期的に行ない、空気圧はこまめに点検して下さい。



違法改造は絶対にしない

- ・車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、車の寿命を縮めることがあります。違法改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
- ・このような改造に起因する場合は、保証がうけられません。



●サイドビュー



●リヤ部



●シートサイド部右側



バッテリーの管理上の注意点

警告

- バッテリーは引火性ガスを発生するので、取扱いを誤ると爆発して大けがをすることがありますので、バッテリーに触れたり、覗き込んだりしないで下さい。また、絶対に火気を近づけないで下さい。特に、充電は風通しの良い場所や換気の良い場所を選んで行って下さい。
- 必要なとき以外はバッテリーカバーは絶対に開けないで下さい。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服に付着すると危険です。バッテリー液が身体や衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流して下さい。万一、目に入った場合はすぐに多量の水で洗い流して、医師の治療を受けて下さい。

バッテリーの点検

- バッテリーは定期的に点検を行なって下さい。

危険

バッテリーの点検、バッテリー液の補給の際はターミナル部、ハーネス接続部などに絶対に手や工具などが触れないように十分注意して下さい。感電する恐れがあり大変危険です。

◆動力用バッテリーの点検

〈点検方法〉



- ①シート下部前方のメンテナンスハッチロック(左右2ヶ所)を外す。

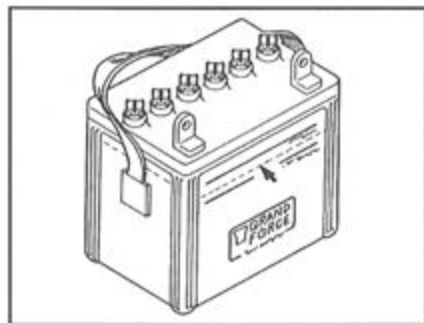
バッテリーの点検



- ②シートごとメンテナンスハッチを傾け、その状態のままメンテナンスハッチを車輻左側に押し出す。
(ヒンジが“抜き差し蝶番”になっています。)

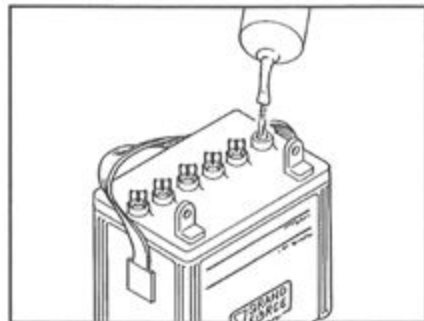


- ③メンテナンスハッチが外れます。



〈開放型バッテリーの場合〉

- ④各バッテリーのバッテリー液量を点検します。バッテリー側面の2本の線の間、バッテリー液があるか点検して下さい。



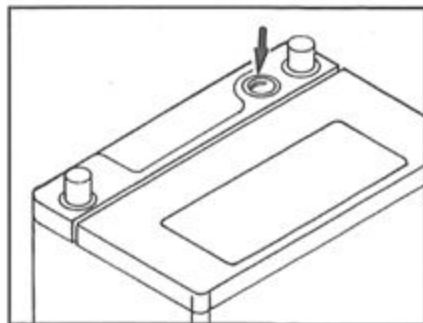
- ⑤バッテリー液が不足している場合は、バッテリー上面のキャップを外し、各槽とも上限のレベルまで蒸留水を補給します。補給後はキャップを確実に締め込みます。

⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業をする場合は、保護メガネと保護服を着用して下さい。
- バッテリーを子供の手の届く所に置かないで下さい。

バッテリーの点検



〈シール型バッテリーの場合〉

- ④各バッテリーのバッテリー液量状態を点検します。
バッテリー上面のハイドロメーターを点検します。

- 緑色の場合：正常です。
- 黒色の場合：放電されている状態です。
充電を行って下さい。
- 白色の場合：液量が不足しています。
バッテリーを交換して下さい

万一の場合の応急措置

- 電解液が目に付着したとき
コップなどに入れた水で、15分以上洗浄して下さい。
加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄して下さい。
- 電解液を飲み込んだとき
水、または牛乳を飲んで下さい。
応急措置後、直ちに医師の診療を受けて下さい。

◆灯火用バッテリーの点検

〈点検方法〉



- ①リヤハッチ前方のノブ（左右2ヶ所）を外す。
（カーゴボックス等を取り付けた方ははじめに取り外します。）



- ②シートを前方にスライドさせてリヤハッチを開く。
- ③動力用バッテリーと同様の方法でバッテリーの点検を行う。

バッテリーの寿命について

●バッテリーの寿命

- ・バッテリーは使用経過とともに性能や、安全性が低下します。
- ・一充電の走行可能距離がバッテリー新品時の走行可能距離の半分程度になったら、バッテリーの寿命と考えます。使用上不都合がある場合はバッテリーを交換して下さい。

●当バッテリーの寿命の目安は、残量25%(走行注意の警告灯が点灯したとき)で充電した場合、約500回となります。

●毎日充電を行えば約1年半で交換時期になります。

●バッテリー充電警告灯(走行注意)が点灯するまで走行するような使い方を繰り返すと、バッテリーの劣化が進み寿命が短くなります。充電はこまめに行うように心掛けて下さい。

●バッテリーの寿命は充電方法によっても変わります。専用充電器以外で充電を行う場合は寿命が極端に短くなる場合もありますのでご注意下さい。



バッテリーの交換

注意

- ・バッテリーの交換は専門的な技術知識を必要としますので、ミツオカ自動車販売店または、代理店にお申しつけ下さい。
また、その他の異常を感じたときもミツオカ自動車販売店または、代理店で点検を受けて下さい。
- ・バッテリー交換の際は全てのバッテリーをセットで交換して下さい。セット以外での交換は不具合の原因となります。
- ・バッテリーは同一種類のものに交換して下さい。種類、容量の違うバッテリーに交換すると故障、事故の原因となります。

- ・バッテリーは使用経過とともに性能や安全性が低下しますので早めに交換して下さい。
- ・バッテリーは適切な管理と、使用で寿命を延ばすことができます。



- ・バッテリーは温度が低下すると性能が悪くなります。寒冷時は屋外に車を放置しないことをおすすめます。

充電の準備

- ・充電を行なう時には、セレクトスイッチを「N」（ニュートラル）の位置にし、パーキングレバーを引いて下さい。
また、キーを抜いておいて下さい。

危険

- ・充電操作は濡れた手で絶対に行なわないで下さい。感電する恐れがあり大変危険です。
- ・充電コードの端子部分及び、車輛側充電コネクタの端子部分には絶対に手を触れたり、ショートさせないようにしてください。感電する恐れがあり大変危険です。
- ・充電コードは丁寧に取扱って下さい。傷つけたり、分解しないで下さい。
損傷したまま使用されると、ショートや感電する恐れがあり大変危険です。

警告

- ・電源は必ず、家庭用コンセント（単相交流100V）を使用して下さい。指定以外の電源で充電が行われると、正常な充電が行われないだけでなく、車輛の機器が破損する恐れがあります。また、コンセントのタコ足配線は行なわないで下さい。
- ・充電は必ず換気の良いところで行って下さい。

充電の準備

- ・ 車輻周辺に火気を近づけないでください。充電中にメインバッテリーから引火性のガスが発生する場合があります。閉め切った車庫内など換気の悪い場所で充電すると付近にこのガスが充満し、万一の場合、引火爆発の恐れがあり大変危険です。
- ・ 充電コード及び車輻側充電コネクタに損傷が見られる場合は、ただちに交換して下さい。損傷したものを使用すると、コネクタ部が焼損したり、感電する恐れがあり大変危険です。
- ・ 充電コネクタを改造するのは、漏電、感電等の原因となり危険ですので絶対に行わないで下さい。
- ・ 充電後は車輻側充電コネクタのフタを確実に閉め、コネクタに水やホコリが入らないようにして下さい。漏電の恐れがあり、ショート、感電の恐れがあります。

万一、水が充電コネクタに入った場合は、必ずキースイッチと電源スイッチが切れていることを確認して、電気の通らない布等で拭き取って下さい。その際、人体が直接端子部に触れないように注意して下さい。

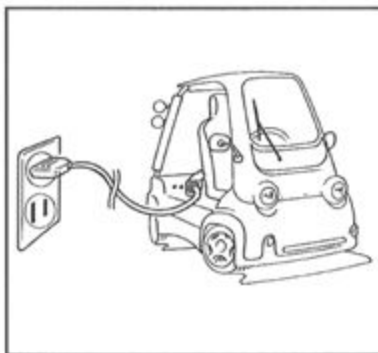
⚠注意

- ・ 充電ケーブルを踏んだり、引っ張ったりしないで下さい。また、足を引っ掛けたりしないよう十分注意して下さい。

- ・ 充電は図のように、家庭用コンセント（単相交流100V）から充電コードを用いて車輻側充電コネクタに接続して行ないます。（車載の充電器で直流に変えて充電します。）
- ・ 一日の走行を終えたら、その日のうちに充電を行って下さい。

⚠注意

- 充電は、5～10km程度走行してから開始できます。ほとんど走らない状態で充電を行うと、過充電の原因となりバッテリーの寿命が短くなりますので十分注意して下さい。
- 完全放電に近い状態のバッテリーを長時間放置されますと、バッテリーの寿命を縮めます。使用後は早めに充電を行って下さい。
- 全く使用しないバッテリーでも、自己放電現象により、自然に残存容量が低下します。全く使用しない場合でも、2週間に1度は充電を実施しましょう。



●充電の手順

①セレクトスイッチを「N」(ニュートラル)の位置にして、パーキングブレーキを引きます。

②イグニッションスイッチを“OFF”の位置にしてキーを抜き取ります。

③シート横の充電コネクタのフタを開けます。

④充電コード(付属)の凹側を車側側の充電コネクタに接続します。確実に差込まれていることを確認して下さい。

⑤充電コード(付属)の凸側を家庭用コンセントに差込みます。

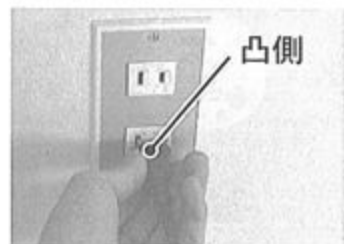
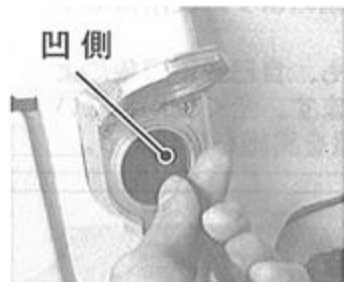
⑥充電が開始します。

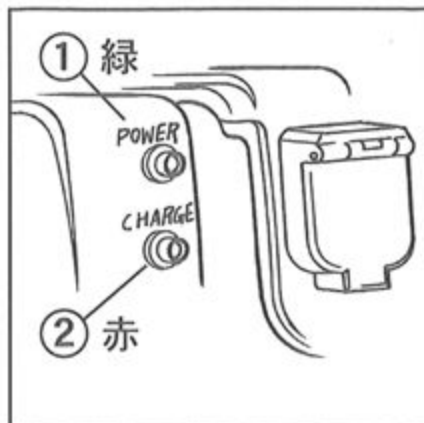


- ・充電コードは付属のものを使用して下さい。やむをえず、代用品を使用する場合は容量15Aのものを使用して下さい。走行中のバッテリー残量切れのことを考えて、充電コードは車輻に積んでおくことをおすすめします。
- ・充電の際、通電音が出ますが異常ではありません。



● 充電コード (付属)





●インジケータランプ

①POWERランプ

ソケット部にAC100Vが流れている場合に点灯します。POWERランプが点灯中はモーターは駆動しません。

②CHARGE(チャージ)ランプ

充電が行われている場合に点灯します。



- ・充電時間は充電を開始した時のバッテリー残量によって異なります。残量がゼロに近い状態から充電を開始すると、8~12時間の充電時間となります。

POWER



CHARGE



- ③充電完了後、充電コードを外すとPOWERランプが消灯します。

●充電開始時

- ①充電コードを接続すると、POWERランプ、CHARGEランプともに点灯します。



●充電完了後の操作

- ・充電が完了したことを確認します。
- ・充電コードのコンセント側を抜き取ります。
- ・充電コードの車輻側を抜き取ります。

●充電完了時

- ②充電が完了すると、CHARGEランプが消灯します。



⚠注意

- ・充電コードの抜き取りは、充電コードの充電ランプ(赤)が消灯していることを確認し、引き抜いて下さい。
- ・充電コードを接続または、引き抜く時はコード部を引っ張ったり、本体を投げ捨てたりしないでください。
- ・充電完了後、充電コードを差したまま長時間放置しないで下さい。

均等充電について



- ・バッテリーは使用しているうちに各バッテリー間で充電量のバラツキが生じます。これをリセットするために下記の方法で均等充電(2度充電)を行って下さい。

(均等充電の方法)

- ①一度、通常の充電を行います。
- ②一度目の充電が終了後、いったん充電コードを引き抜きます。一分以上経過してから再度充電コードを充電コネクタに差し込み2度目の充電を開始します。
- ③2度目の充電は約4時間で終了します(CHARGEランプが消灯します)。

(均等充電の実施時期)

- ・均等充電は月1回行って下さい。但し、以下の内容に注意して下さい。
 - ①夏場の30℃以上になるような場合は行わないで下さい。
 - ②冬場は月に2~4回行って下さい。

一充電走行距離について



一充電走行距離について

- ・一充電当たりの走行可能距離は気温20℃で通常の走行をした場合で以下の通りです。

48V仕様：最大40km 実用30km
72V仕様：最大50km 実用40km

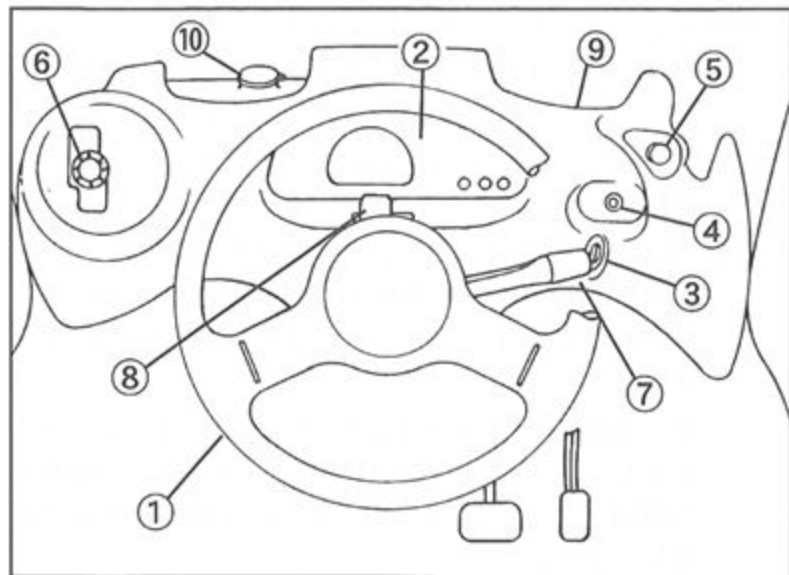
但し、走行可能距離は季節(気温)や走行の状態により変化します。

気温：バッテリーの性能は気温によって変化します。気温が高いと性能が上がり、気温が低いと性能は低下します。5℃以下の場合、20%程度走行距離が低下することがあります。

走行状態：急発進、急加速を繰り返す行くと走行距離は低下します。極力スムーズな運転を心掛けて下さい。

- ・実際上の走行可能距離はトリップメーターの表示で判断して下さい(バッテリー充電警告灯はあくまで参考として下さい)。トリップメーターで走行可能距離を判断するには、普段より一回充電当たりどの程度走行可能であるかを確認しておいて下さい(トリップメーターを“0” kmに戻してから走行を開始して下さい)。

インストルメントパネルの名称



●インストルメントパネルの名称

- ①ハンドル
- ②コンビネーションメーター
- ③イグニッションスイッチ
- ④リセットボタン
- ⑤ワイパースイッチ
- ⑥セレクトスイッチ
- ⑦ターンシグナル/ディマスイッチ
- ⑧ハザードスイッチ
- ⑨ブレーキ液補給口
- ⑩ウォッシャー液補給口



●メーターと警告灯のみかた

①スピードメーター(速度計)

車の速度をkm/hで表示します。

②オドメーター(総積算距離計)

走行した総距離を表示します。

③トリップメーター

任意のタイミングで、走行した距離を表示します。
1回充電当りの走行距離を計るのに便利です。
バッテリー残量警告灯と併せて活用して下さい。

④リセットノブ

トリップメーターを左に回して、リセットします。

⑤ハイビームインジケータランプ

ヘッドランプが上向きになるときに点灯します。

⑥ターンシグナルパイロットランプ

ターンシグナル/ディマスイッチレバーを操作し、
ターンシグナルが作動すると点滅します。

⑦灯火用バッテリー(12V)充電警告灯

点灯した場合はすみやかに充電を行って下さい。

⑧動力用バッテリー(48/72V)充電警告灯(要充電)

動力用バッテリーの電圧が規定値以下になると警告
灯が点灯します。できるだけすみやかに充電して下
さい。

尚、充電は5~10km走行していれば可能となります。
ただし、全く走行しない状態で充電を行うと過充電
の原因となり、バッテリーの寿命を縮めますので注
意して下さい。

⑨動力用バッテリー(48/72V) 充電警告灯(走行注意)

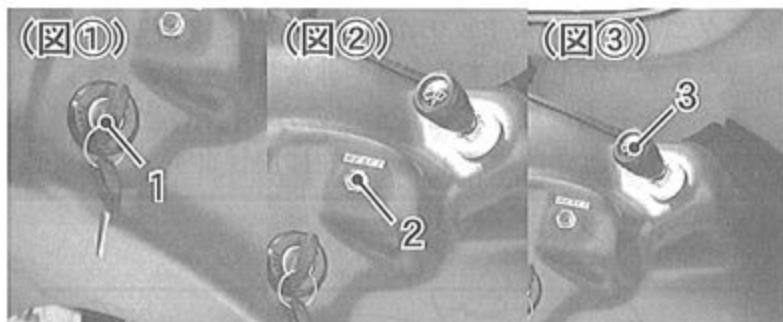
動力用バッテリーの残量がわずかになった場合に点
灯します。非常移動用となりますのでご注意下さい。



“走行注意”の警告灯が点灯した時点で、走行可
能な距離は以下の通りです。

(以下はあくまで目安ですので、すみやかに充電
を行って下さい。)

72V仕様/48V仕様：2~3km



1. イグニッションスイッチ(図①)

OFF……………キーを抜き差しできる。

ON……………走行可能な状態になる。

2. リセットボタン(図②)

明らかにバッテリー残量が十分ある場合でも、一時的に大容量の電気を使用した時(坂道を走り続けた場合など)に、バッテリー充電警告灯(要充電、走行注意)が点灯する場合があります。

これをリセットする場合にリセットボタンを押します。



- ・バッテリー充電警告灯の点灯は、充電を行いバッテリー電圧が回復しても消灯しません。充電開始時、又は終了時にリセットボタンを押して充電警告灯を消灯して下さい。

3. ウォッシャー／ワイパースイッチ(図③)

右へ回すとウォッシャー液が出ます。

引くとワイパーが作動します。

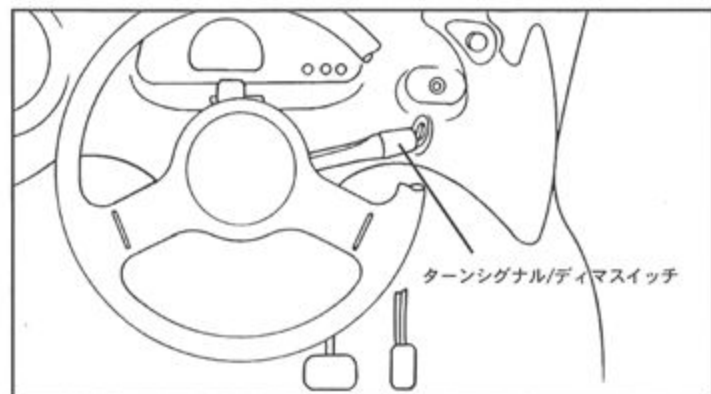
⚠注意

- ・寒冷時はウォッシャー液を外気温と合わせた希釈割合にして下さい。ウィンドガラスに吹き付けられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ思わぬ事故につながる恐れがあります。



- ・ウォッシャー液が出ないとき、そのまま長時間(30秒以上)作動させないで下さい。モーターの故障の原因となります。
- ・ウォッシャー液を補給しても、液が出ないときはノズルの穴にワックス等が詰まっていることがあります。穴に針等をさして、詰りをとって下さい。

◆ターンシグナル/ディマスイッチ



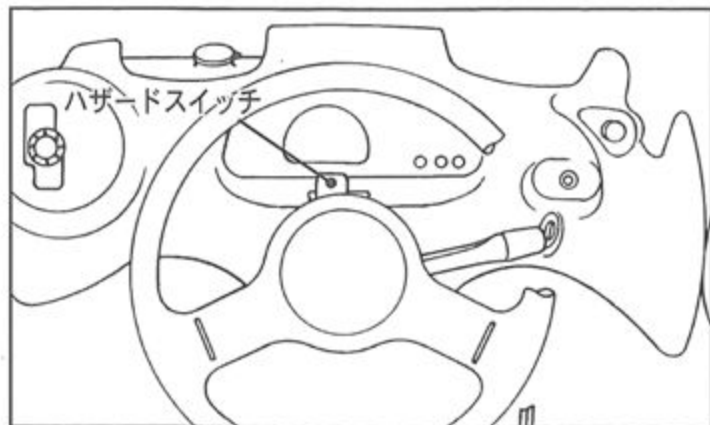
スイッチの使い方

- ターンシグナルは、イグニッションスイッチがONになっているときに作動します。レバーを上には動かすと、左側ターンシグナルが、またレバーを中央から下へ動かすと右側のターンシグナルが点滅します。
- ディマ(ヘッドランプ切換)は、レバーを手前に引き上げるとヘッドランプが切り換わり、もう一度レバーを引き上げると元に戻ります。



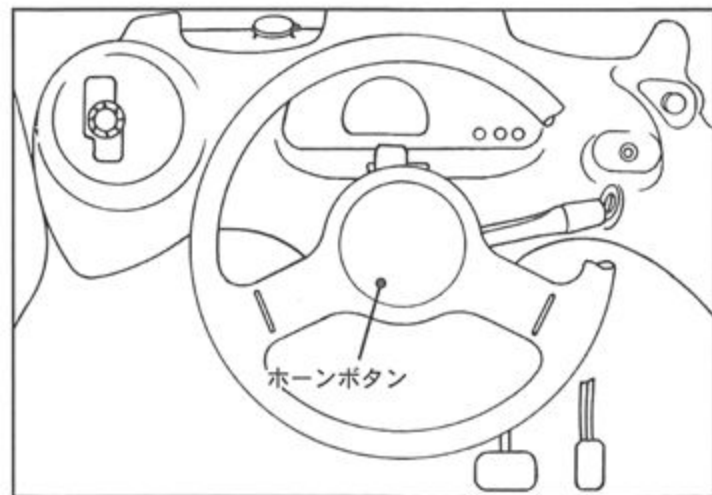
・ヘッドランプ、テールランプはイグニッションスイッチをONにすると同時に自動的に常時点灯します。

◆ハザードスイッチ (非常点滅灯)



- イグニッションスイッチがONの状態で作動します。やむをえず、路上駐車するときや非常時に使用します。スイッチを右には動かすと、全ての方向指示器が点滅します。止めるときは、スイッチを左に戻します。

◆ホーンボタン



- ホーンボタンを押すと、ホーン(警音器)がなります。



- ・セレクトスイッチの操作は、必ず車輛が停止している状態で行なって下さい。

「N」……ニュートラル

イグニッションスイッチをOFF→ON、ON→OFFにするときの位置です。また、充電を行なうときも「N」の状態にして下さい。

「D」……ドライブ（前進）

イグニッションスイッチをONの状態にしてから、セレクトスイッチを「D」に入れてアクセルペダルを踏むと、車輛が前進します。

「R」……リバース（後進）

イグニッションスイッチをONの状態にしてから、セレクトスイッチを「R」に入れてアクセルペダルを踏

むと、車輛が後進します。

⚠ 注意

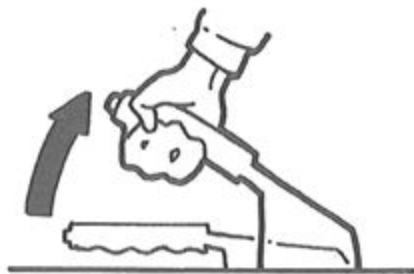
- ・切換は必ず車輛停止時に行なって下さい。
- ・切換はアクセルペダルを踏まない状態で行なって下さい。
- ・後退したときはすぐに「R」→「D」に戻す習慣をつけて下さい。
- ・イグニッションスイッチをONにするときは「N」、前進するときは「D」、後退するときは「R」の位置にあることを確認して下さい。
- ・走行中にセレクトスイッチを「D」→「R」、「R」→「D」にしないこと。
- ・走行中にアクセルを踏んだままセレクトスイッチを切り換えると（「D」→「R」、「R」→「D」）、安全装置が働いてモーターが作動しません（車輛は惰性で走る）。但し、一度アクセルを戻し再度踏み込んだ場合はモーターが作動します。この時に急激なアクセル操作を行いますと、進行していた方向とは逆方向に大きな駆動力が働きますので大変危険です。また、モーターの故障や思わぬ事故につながる恐れがありますので、十分注意して下さい。

◆始動する前に

次のことを確認して下さい

- ・ 日常点検はすみしましたか。

- ・ パーキングブレーキは完全にかかっていますか。



- ・ セレクトスイッチは「N」の位置になっていますか。



◆正しい運転位置がとれるようシート位置を調整して下さい。

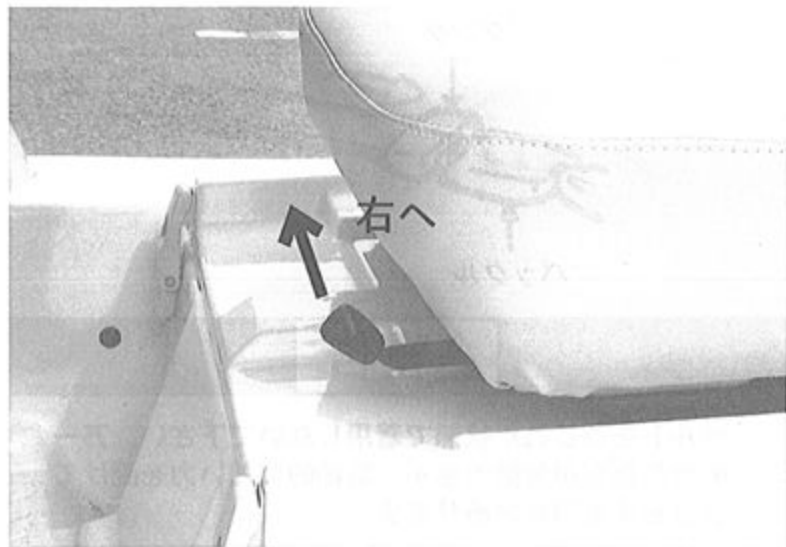


⚠ 警告

- ・ シートの調整は安全のため必ず走行前に行なって下さい。走行中に行なうと、突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・ 調整しているときは、動いている部分に手、足等を近づけないで下さい。挟まれてケガをする恐れがあります。
- ・ 背もたれと背中中のクッションなどを入れないで下さい。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

●前後位置調整

- ・レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。
- ・レバーから手を離したところで固定します。



⚠ 注意

- ・調整した後は、シートを前後にゆさぶり固定されていることを確認して下さい。
- 固定されていないと、走行中にシートが突然動き思わぬ事故につながる恐れがあります。

◆シートベルトの正しい装着

- ・走行する前に、必ずシートベルトを着用して下さい。
- ・シートベルトを着用するときは、正しい運転姿勢で正しく着用して下さい。不適正に着用すると、シートベルトの効果が十分発揮できなかつたり、ベルトによりケガなどをする恐れがあります。
- ・次の使用方法、警告にしたがって正しく着用して下さい。

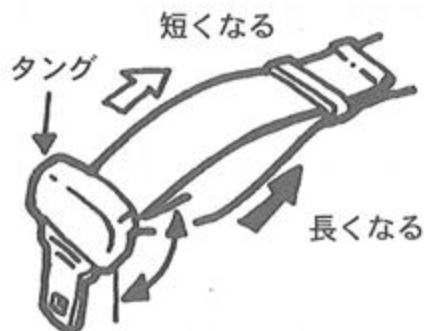


⚠ 警告

- ・万一の事故時の傷害軽減、急ブレーキ時などのケガを避けるため、以下のことを守って下さい。
- ・正しい運転姿勢で正しく着用して下さい。
- ・ベルトをねじれた状態で着用しないで下さい。万一の時に衝撃が分散できず、局部的に強い力を受けてケガをする恐れがあります。

●長さ調整のしかた

- ・タングを立て、ベルトを必要な長さにします。
- ・上側を引くとベルトが短くなり、下側を引くと長くなります。



⚠注意

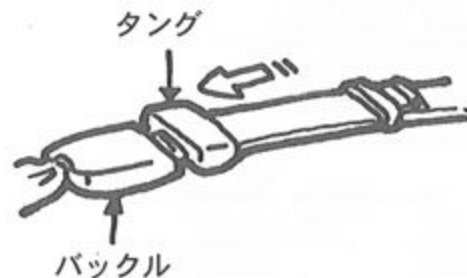
- ・ベルトが腰骨の部分に密着するように、ベルトの長さを調節して下さい。たるませたり、腹部にかけると万一のとき、シートベルトの効果が得られず重大な事故につながる恐れがあります。



- ・最初長めに調節し、タングをバックルに差込んだ後、長さを調節すると腰骨に密着させやすいです。

●着用のしかた

- ・ベルトがねじれないようにタングを持ってバックルに「カチッ」と音がするまで差込みます。



⚠警告

- ・ベルトをねじれた状態で着用しないで下さい。万一の時に衝撃が分散できず、局部的に強い力を受けてケガをする恐れがあります。

●外しかた

- ・バックルのボタンを押して外します。



◆発進と走行の手順

- ①パーキングブレーキが完全にかかっていることを確認します。
- ②セレクトスイッチが「N」の位置にあるかどうか確認します。（必ず「N」の位置にして下さい）
- ③キーをONにします。
- ④ブレーキペダルを踏みながらセレクトスイッチを「D」の位置に入れます。ブレーキペダルから足をはなし、パーキングブレーキを戻しながらゆっくりとアクセルペダルを踏み込むと発進、走行ができます。
- ⑤後は、アクセルペダルの踏み加減とブレーキペダルによりスピードを調整して下さい。

⚠警告

安全のためセレクトスイッチを切り換えるときは、必ずブレーキペダルをしっかりと踏み込んで下さい。

⚠注意

- ・走行中にセレクトスイッチを「D」→「R」、「R」→「D」にしないこと。
- ・走行中にアクセルを踏んだままセレクトスイッチを切り換えると（「D」→「R」、「R」→「D」）、安全装置が働いてモーターが作動しません（車輜は惰性で走る）。但し、一度アクセルを戻し再度踏み込んだ場合はモーターが作動します。この時に急激なアクセル操作を行いますと、進行していた方向とは逆方向に大きな駆動力が働きますので大変危険です。また、モーターの故障や思わぬ事故につながる恐れがありますので十分注意して下さい。
- ・上り坂でアクセルペダルを踏んだままで停止状態を保つことはしないでください。
- ・停車後の再発進は、セレクトスイッチの位置を目で確認して下さい。
- ・セレクトスイッチを「D」または「R」の状態でブレーキをかけたままモーター回転をあげると故障の原因となります。

◆車両の止め方、駐車のかた

- ①アクセルペダルから足を離し、ブレーキをかけて車を停止させます。
- ②ブレーキペダルを踏みパーキングブレーキを引きセレクトスイッチを「N」にします。
- ③イグニッションスイッチキーをOFFの位置にまわします。

⚠注意

- ・車から離れるときは必ずパーキングブレーキを引き、セレクトスイッチを「N」にしてからイグニッションスイッチキーを抜きとって下さい。

◆制動（ブレーキ）

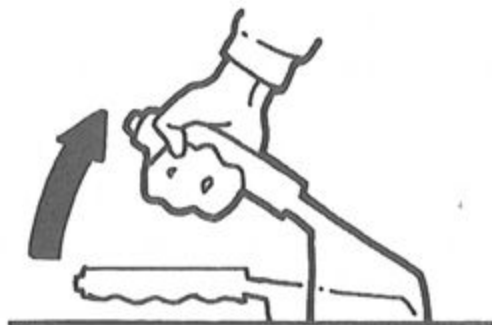
- ・不必要な急ブレーキは避けましょう。

◆ならし運転（約500km）

- ・ならし運転とは新車時にゆっくり運転することによって新しい部品をお互いなじみ合せることです。
- ・部品のなじみは車の寿命に大きく影響します。ならし運転期間は絶対に無理な運転は避けましょう。

◆パーキングブレーキ

- ・駐車時または、坂道発進時にレバーを一杯引いて使用します。
- ・もどすときは、レバーを少し引き上げ、先端のノブを押さえてもどします。



⚠注意

- ・走行中はパーキングブレーキの戻し忘れがないように注意して下さい。
- ・パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが過熱し、ブレーキ部品が早く磨耗したり、ブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

寒冷地での取扱い

- 氷雪路では滑りやすいので、スリップに注意して下さい。スピードを落として走行しましょう。また、車間距離を多めに保ちブレーキは早めにかけることが重要です。なお、ブレーキを急にかけることは避け、軽く数回に分けて小刻みにかけて下さい。雪道での急ブレーキ、急ハンドルは禁物です。
- フロントガラスの氷雪を除去するときは、ワイパーのゴム部がガラスに凍結してないか確認して下さい。
- 寒冷時にはパーキングブレーキレバーを引いておくと、ブレーキが凍結して解除できなくなる恐れがあります。こんなときはパーキングブレーキは使わずに、タイヤに市販の輪止めをして下さい。



寒冷地での取扱い

- 寒冷時にはウィンドウォッシャーを使用すると、噴出した液が凍結して、前方視界が保てなくなる恐れがあり大変危険です。必ず不凍効果のあるウォッシャー液を使用して下さい。

⚠注意

- ・寒冷時はウィンドウォッシャー液を外気温と合わせた希釈割合にして下さい。ウィンドガラスに吹き付けられたウォッシャー液が凍結し、前方視界が保てなくなる恐れがあり大変危険です。



- 寒冷地では雪道走行時に、ブレーキ装置に水や氷が付着してブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキペダルを軽く踏んで、効き具合を確かめて下さい。効きが悪いときは、前後の車に十分注意して低速で走行しながら効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキの湿りを乾かして下さい。また、駐車

後、走行を開始する場合も同様にブレーキの効きを確認して下さい。

- 寒冷時は、アクセルペダル、ブレーキペダル等の可動部に付着した水分が凍結し、正常に作動しない場合があります。乗車時は十分確認して下さい。
- 冰雪路面では滑りやすいので、スリップに十分注意して下さい。



お願い

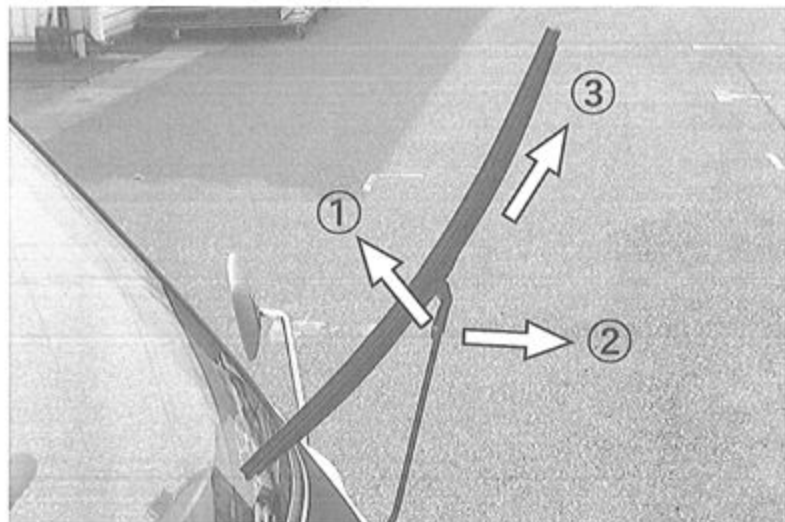
- 雨天時に、室内に入った雨水は水抜き穴から自然に水が車外に排出される構造になっています。もし、ゴミ等により十分に排出されないときは、水抜き穴を清掃して下さい。
- 車輦を離れるときは、大切なものは車内に残さないよう注意して下さい。
- MC-1TEVにはハンドルロックの装置が装備されておりませんので、盗難対策には市販の盗難対策用グッズを使用して下さい。

整備点検について

- 点検整備については別冊メンテナンスノートを参照の上、日常点検、定期点検を正しく行って下さい。
- 以下にメンテナンスノートには記載されていない点検・整備方法、および整備情報を明記しておきます。点検整備の際に参照して下さい。

◆ワイパー/ウォッシャーの点検

- ・ワイパー/ウォッシャーを作動させ正常に機能しているかを確認します。ゴムの劣化により拭き残しがある場合は以下のようにして、ワイパーブレードを交換して下さい。
- ワイパーブレードの交換



- ・ワイパーアームを起こし、①のレバーを押しながら②の方向へ押し上げ、③の方向へ抜き取って下さい。

⚠注意

- ・ブレードを取り外したときは、アームを倒すとガラスに傷をつけることがあります。

●ウィンドウォッシャー液の補充

- ・ウォッシャー液が不足している場合は、下記のようにして液を補給して下さい。



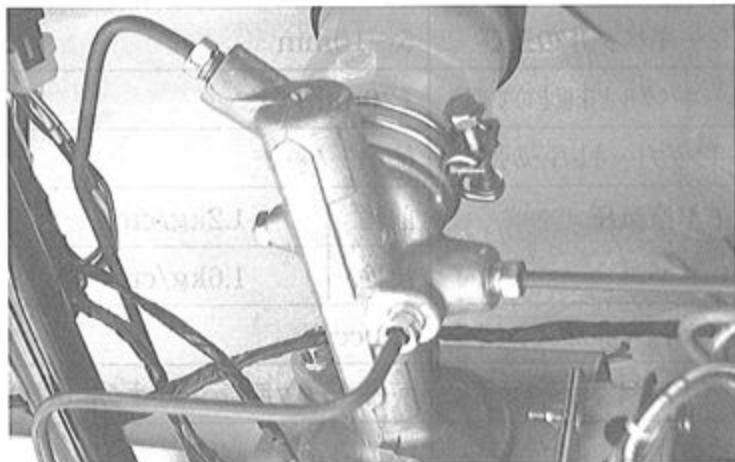
整備点検について

- ・水道水または、ウィンドウォッシャー液専用のうすめ液で補給します。(タンク容量1.5リットル) 冬期は不凍効果のあるウォッシャー液をお使い下さい。

⚠注意

- ・フタにある穴が詰ると噴出不良をおこします。詰っている場合は、楊枝等でつついて詰りをとって下さい。
- ・石鹼水等を入れると、イズルが詰ったり、塗装のしみなどの原因になります。

◆ブレーキの液量



- ・インパネの下から覗いて、タンク内の液面がMIN線とMAX線の間にあるか確認して下さい。
MIN線より下にある場合は、MAX線までブレーキフルードを入れて下さい。
他のブレーキフルードとの併用はやめて下さい。

⚠注意

- ・ブレーキ液は2年に一度、サービス工場で交換して下さい。
- ・粗悪品や他種のオイルと混ぜると危険です。
- ・ブレーキ液の減りが著しいときは、点検を受けて下さい。

整備点検について

●整備情報

ブレーキペダルの遊び	5～10mm	
ブレーキペダルと床板とのすき間	120mm以上	
パーキングブレーキレバーの引き代	標準5ノッチ	
タイヤ空気圧	前輪	1.2kg/cm ²
	後輪	1.6kg/cm ²
ファイナルギヤボックスオイル量	200cc	
ファイナルギヤボックスオイル	オートマチック用ミッションオイル (ATF)	
ブレーキ液	DOT3	

ボディのお手入れ

- ボディのツヤを保持するために、半年に一度必ずWAXがけを行って下さい。



- ボディ面にツヤがなくなった場合は、コンパウンド、WAX等で磨くとツヤが戻ります。但し、強く磨きすぎると塗膜が薄くなったり、色むらが生じることがありますので注意して下さい。

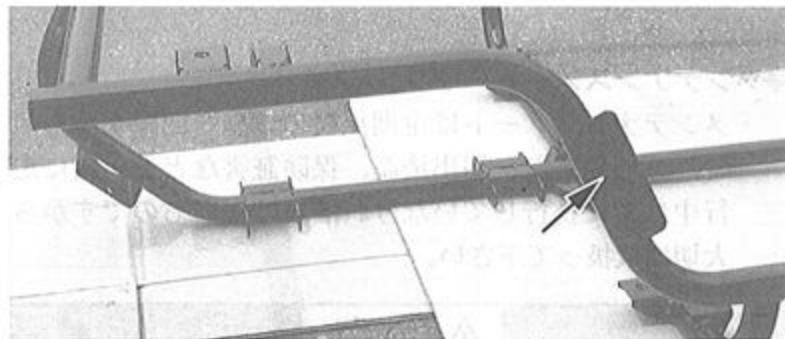
洗車／住みやすい環境の為に

- 洗車時、バッテリー、電気系統部分に水をかけないようにしてください。始動不良や、電気部品の故障の原因となり最悪の場合、火災となる恐れがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにして下さい。水がかかるとブレーキの効きが悪くなる場合があります。洗車後は安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させ、ブレーキの効き具合を確認して下さい。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させ、しばらく低速で走行しながらブレーキの湿りを乾かして下さい。
- 地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、ブレーキ液の廃油等はむやみに捨てないで下さい。将来、お車を廃棄される場合も同様です。これらのものを廃棄される場合は、お買い上げの販売店にご相談下さい。

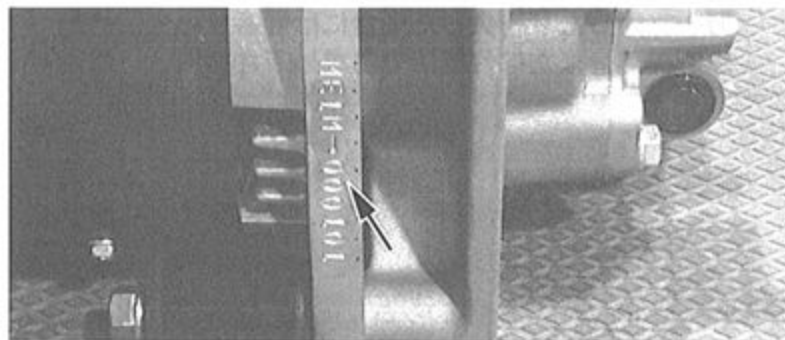
フレーム号機

- フレーム号機は、部品を注文するときや車の登録に関する手続きに必要です。
また、フレーム号機はお車が盗難にあった場合に、車を探す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置（左前タイヤ上側のフレーム部）



電動号機（モーター正面部）



◆MC-1TEVの保証について

- ・ミツオカではお買い上げいただいた製品について、「ミツオカ保証制度」に基づいた品質の保証を致しております。別冊メンテナンスノートの巻頭に保証書が貼付してあります。

この保証書に保証内容が詳しく記載してありますのでご参照下さい。

◆メンテナンスノート

- ・メンテナンスノートは定期点検の実施を記録するもので、運転免許証、届出済証、保険証書などと一緒に走行中は常に携行していなければいけないものですから大切に取扱って下さい。



注意

- ・万一、汚したり紛失した場合には最寄りの光岡自動車販売店、または代理店でお求め下さい。

◆愛車の点検・修理の場合は

- ・点検の実施及び簡単な整備は構造、装置によって基礎的な技術知識を必要とするものがあります。あなたご自身で作業及び、良否の判断ができない点検、調整、修理の場合にはお買い上げ販売店または、弊社代理店にお申しつけ下さい。なお、その場合には、症状をはっきりとお伝え下さい。

サービスデータ

項目	データ	
寸法	車体寸法 (長×幅×高)	1955×1130×1475mm
	ホイールベース	1310mm
	最低地上高	105mm
重量	車輻重量	280kg (48V)、330kg (72V)
	乗車定員	1人
性能	制動停止距離	8.5m(40km/h)
	最小回転半径	3.5m
	登坂能力	18°
	一充電走行距離	48V仕様：最大40km 実用30km (市街地走行) 72V仕様：最大50km 実用40km (市街地走行)
電動機	モーター種類	直流直巻電動機
	モーター定格出力	0.59kw
	モーター制御方式	PWM方式
電池	バッテリー種類	鉛バッテリー／鉛シールバッテリー
	バッテリー容量・電圧×個	12V・50Ah×4(48V) 12V・50Ah×6(72V)
	充電装置方式	車載型2線式
	充電制御方式	定電流・定電圧充電方式
	交流入力電源	AC100V 50/60Hz
	充電時間	8～10時間
その他	タイヤサイズ(前/後)	4.00-8-55J
	タイヤ空気圧 (前輪)	1.2kg/cm ²
	タイヤ空気圧 (後輪)	1.6kg/cm ²

・バルブ (電球) 一覧

前	照	灯	18/18W
番	号	灯	10W
制	動	灯	18W
尾		灯	5W
後	退	灯	3.4W
ターンシグナルランプ			20W

⚠ 注意

・指定ワット数以外のバルブ (電球) は使用しないで下さい。

メ 毛

ミツウカマイクロカー

下駄車



MITSUOKA-MICRO-CAR

